



第一コミュニティ

沼津第一地区コミュニティ推進委員会広報紙 第21号 平成14年4月1日発行

学校が週休2日に！

期待されるコミュニティの役割

総合学習スタート

学校教育が変わる

授業時間が七十時間減る

この四月から公立の小中学校が完全週休二日制になり、授業時間も大幅に減ります。例えば小学六年生の場合には現在の年間千

十五時間が、今年度から七十時間減って九百四十五時間となります。子供達は大喜びしそうですがこれには賛否両論があります。「教室の中だけの授業から、外に出ての課外活動が増えるのだから視野が広がって良い」と歓迎する人がいる一方、学力の低下を心配する声もかなりあります。

基礎を中心の授業になる

今回の教育改革ではこの授業時間の減少だけでなく、円周率を三(一)にするなど教える内容についてもいろいろな話題になっ

ています。これは、誰もが理解できる基礎だけを教えれば「みんなが百点をとれるように」なるはず(文部科学省)との考え方に基づくそうですが皆さんはどう思われますか。

あたらしい科目 総合学習

さて一方で「総合的な学習の時間」の導入がされました。これは体験や討論などを通じて、生きる力や考える力を引き出そうという試みだそうです。要するに、今までの学校は「先生から与えられる勉強でしたが、これからは「自分たちで考えて、たくましく問題を解決できるようになりたい」ということなのでしょう。つまり「総合学習」とは、単に今までの国語や算数、理科、社会といった科目を寄せ集めて、総合的に取り組むという意味ではありません。まったく新しい

科目としてとらえられるのです。

「総合学習」は、子供達が主体(中心)になって、これからの厳しい時代をたくましく生き抜く

子供達を地域みんなで支えよう

「今の子どもたちは、人前で自分の意見が言えない。体力が無い」などと言われ続けて随分たちます。

これも、今までの日本の教育の歪で、いつのまにか子供達に受け身の姿勢が染み着いてしまったわけです。もちろんこれは学校のせいばかりではありません。今の家庭や地域社会の教育力も低下しているということでしょう。子供達の能力を伸ばすのに、その子に一番あった方法が何であるか、まずそれぞれの家庭で子供と親が話し合わなければならないと思います。

今の状況、将来のこと、いろいろ話す中で、今しなければならぬことが見えてくるはずです。なぜ勉強しなければならないのかという問いかけに、つい進学のためとか、漠然と将来のためとか言ってしまうがちです。確かに、進学や

力を身につけるための学習です。

なんだかおかげですが、自ら学び自ら考える力を身につけさせようということです。

資格を取るための勉強もありますが、そうではない勉強もあります。対話を進めていけば、そうでない勉強をするためには、もともとなる力が必要だということがわかってくると思います。そして、そのもともとなる力は、学校だけでは教えてもらえないとなります。

幸い第一校区にはコミュニティと言う素晴らしい地域組織が育っています。人生経験豊富なお年寄りをはじめとしてスポーツ指導者など多くの人材情報も集まり、またその場所もあります。地域の皆さんが子供達をみな自分の子のように優しく支えていくことが今求められているのです。



■高い出席率はコミュニティの誇りです■

成人式の主役はもちろん新成人です。今年の第一地区新成人の出席率は何と97.4% 該当者77人中75人の出席という沼津地区で2年連続トップのすばらしい出席率でした。

ちなみに全市平均は78.9%、該当者数2409人のうち1900人がこの日はれの成人式に臨みました。

平成十四年第一地区成人式が一月十三日、沼津軒で開催されました。成人出席者七五名(男四〇名、女三五名)出席率九七、四%という。高い出席率でした。会場には各自治会長及び来賓の小中学校恩師、議員の方々の他、新成人の両親も多数来場しました。式典後の懇親会では、大手町の商店街や各自治会よりお祝の品物を多数頂き、新成人

97.4%

「好出席率だった成人式」

コミュニティの皆で新成人をお祝い



同日午後より市の会議場で新成人議会が開催され、議長に前田友紀さん、質問者に荒井美穂さん、議員に服部大介君、松林光哉くん、牛田宏美さんが参加しました。



地区センター休館日

4月
1. 8. 15. 22. 29. 30.

5月
4. 5. 6. 7. 13. 20. 27.

6月
3. 10. 17. 24.

TEL 963-5088



恒例のどんどん焼きが一月十三日第一小学校でグラウンドで行われました。不景気のためか「飾りが少なくなっているね」との声もありましたが、子供達にとっては楽しいひとときになったようです。

第一地区どんどん焼

平成14年度コミュニティ推進委員会定時総会

とき 5月17日(金) 午後7時
ところ 第一地区センター 会議室



皆様お誘い合わせのご出席ください。

合同運動会準備会議

校区祭と第一小学校の運動会を合同で行うための第九回合同運動会準備会議が二月二十六日コミュニティ室で開かれました。十月十三日の開催日確認と概要についての担当各部の意見交換を行い、本格的な準備作業については今年度の実行委員が決定次第スタートすることとなりました。

シリーズ私の町(三)

町方町の由来

町方町自治会長 出口昭廣

上土町の西側一帯の地域は江戸時代には沼津城に接する地域で、東西の堀に沿って沼津藩の侍屋敷や役所があり、いわゆる町人の住む町域ではなかった。明治五年、沼津城廃城後は町域となり、本町や上土町に接する町場となり町人社会の町、いわゆる町方(まぢかた)の町となり町方町と称したいわれる。

また沼津藩当時この町に町方役所が設けられ、町や町人に関する支配事務をつかさ



昭和初期の町方町

—丸二薬局より本通りをのぞむ



本通り—昭和27年頃

どっていた町方にかかわる役所があった土地に由来して、町方役所の町から『町方町』と称されるようになったともいわれる。町は明治初期に設立した大字城内に編入された。

この町の歴史に大きな影響を与えたのは大正二年の大火で、三月三日雛祭りの日に本字出口から出火し、沼津町は灰塵に帰してしまった。その後間もなく区画整理事業が行われ、道路の付け替え拡幅によつて、これまで行き止まり

であった本町の通りを北に向かって延長し、町方町地域を貫通させ、現在の様な形ができた。この通りを本通りと称した。それとともに沼津で一

シリーズ地域のひともの紹介します

フェンシングコーチ高田さん(44)(大手町)

国内外で活躍する多くの選手を育てる

番の繁華街となった。

昭和二十九年には中央アーケード共同建築が完成し、全国で最初の不燃化商店街として日本中の注目を集めた。

前回の本紙で、新成人でありフェンシングでアジア選手

権優勝や世界選手権出場等のすばらしい実績を持つ前田友紀さん(八幡町)の『出会うことの大切さ』という一文を紹介しましたが、彼女が出会い、そして「高い目標に向かって努力することを教えて頂いた」方が高田康修さん(大手町三の三の一五)です。一九

八六年のバルセロナ、翌年のソフィアと日本代表のコーチを、そして八七年の山梨国体でも優勝チーム山梨県のコーチを務めました。その後沼津市民体育館のフェンシング教室で指導を続け、沼津東高のコーチに就任、現在はアドバ

イザーコーチの立場にあります。この間多くの有望な選手

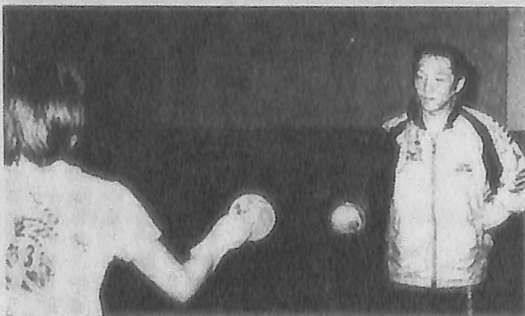
を育て、昨年の高校総体では県代表を沼津勢が独占するという成果に大きな貢献をされました。現在は県フェンシング協会事務局を担当する他、日本フェンシング協会ジュニアの強化コーチ・国際委員、日本オリンピック委員会

の強化強化スタッフコーチコーチなどの要職を務めています。高田さんは「指導には二つの意味がある。楽しむことを知ってもらうこと、競技とは何か基本から教えること」と指導の視点を示した上で

「スポーツの個人種目では相手に向かって自分の考え(戦

い方)をはっきり出すという点で、自らの生き方にもつながっていく。フェンシングは生涯スポーツだと思っているし。学んだ子がいつかまた時間のある時に剣を持ってもらえるようになればこんなうれしいことない」と話しています。

玉磨かざれば光り無しといひます。優れた素材とそれを見つけて磨く指導者との出会い、もしコミュニティの場が地域でそんな機能も果たせるようになれば素晴らしい事だと思います。



優れた指導力で優秀な選手を育てている高田さん(本欄は沼津朝日新聞社様のご協力をいただきました)



コミュニティの赤ちゃんこんにちは



好評の赤ちゃんシリーズです。少子化の中、元気な赤ちゃんの誕生をみなでお祝しましょう

自薦他薦の赤ちゃんを順次ご紹介していきます。掲載ご希望の方はコミ事務所までどうぞ

「コミカレをござんじですか」

「コミュニティカレッジ」に参加しませんか

コミカレとは、県コミュニティづくり推進協議会が主催するリーダー養成事業のことです。その目的はコミュニティづくりの地域リーダーを育成し、住民が自発的に行うコミュニティづくりを推進しようというものです。といっても決して難しいものではなくコミュニティづくりに関心があり自己研鑽を目指している方でしたらぜひ参加していただきたい素晴らしい講座です。

今年度も七月九月に六回程のスケジュールで講座が予定されております。詳しいことはコミ推進委員会（コミ事務所）までお問い合わせ下さい。

「コミカレ修了者 大川幸子」

先日、静岡グランシップにて「青少年健全育成問題」をテーマにコミフォーラムが開催され、その中の「子供達からのメッセージ」と題した講演は聴講者の心を大きく揺さぶりました。講師は千葉紘子さん（歌手）保護司として矯正施設に足を運び被収容者が持つ様々な問題を聞きながら、自分自身が教えられ、勇気づけられたと語っていました。

社会の持つ様々な問題を写す鏡は子供達の問題行動であると言われていて、現在非行に走った少年達の抱える心の問題を分析する方法の一つとして「描画法」という検査法が研究されているそうです。

その絵画集（アジア矯正施設収容少年絵画エッセイコンクール入賞作品）が地区センターにあります。

地域の皆様に自由にご覧になつていただいて少年達が希望を持つて力強く素直に表現した、言葉にならないコトバの意味を真剣に受け止めていただけたいと思います。

大人が変われば子供も変わる

コミカレ修了者 大川幸子

先日、静岡グランシップにて「青少年健全育成問題」をテーマにコミフォーラムが開催され、その中の「子供達からのメッ